

# OMM JAPAN 2022 テクニカルディレクターレポート

岐阜県郡上市、高山市を舞台に開催した OMM JAPAN 2022 を無事に終えることができました。9 回目の運営にして初めて、テレイン選定・コース設定をすべて任せて競技運営に集中させてもらいました。私がテクニカルディレクターに就任し 3 年目。前回のレポートで掲げた課題の解決を試みながら、よりよいイベントになるよう準備しました。今回のイベントの競技面で特筆すべき点、今後の課題について以下の通り報告します。

## ① 運営上のトラブル

### 地図への緊急連絡先の記載漏れ

緊急連絡先の電話番号が競技用の地図に記載されていなかった。入稿前にテクニカルディレクター、コースプランナー、地図調製業者の 3 者でチェックしあったが気づくことができず、納品の段階で発覚した。

事前にメールで参加者に緊急連絡先を知らせる、受付に配布する安全に関する最終案内でアナウンスする、イベントセンターに掲示する、スタート前にも登録したか確認する、という対応で緊急連絡先を周知した。

幸いにして連絡ができずに事故となる事案は発生しなかったが、参加者の安全確保のための重要な情報が抜けていたことは重大な問題だと受け止めている。

過去には地図印刷前のチェックリストがあったが、担当者が変わるなかでリストが適切に引き継がれておらずチェック体制が不十分であった。今後はチェックリストを共有し、漏れなくチェックする体制を取るべきである。

一方で地図紛失・破損時に備えて、緊急連絡先の事前アナウンスは今後も継続することを提案したい。

### スキー場内での迂回措置

競技エリア内のスキー場にてスキー場開きの神事が行われるということで、土曜日の神事準備中にあるチームが関係者に呼び止められる事案が発生した。一報を受け、イベントディレクターと渉外責任者が現地に確認へ行き、翌日の神事の際に該当エリアに参加者を入れないよう要請を受けた。コースプランナーと協議し、対象エリアと時間帯が限られること、迂回ルートがあることからコースに大きな影響はないと判断、該当エリアの周辺にスタッフを配置して迂回を促すことで対応することとした。その旨を 2 日目スタート時に事前アナウンスした。何チームかのルートに影響を与えたが、特にクレームとはならず参加者、スキー場関係者ともご理解いただけたことに感謝したい。

このスキー場には支配人を通じて OMM JAPAN の参加者が通行する了承を事前に得ていたが、現場レベルでの伝達が不十分だったか事前に防ぐことができなかった。今後も事前の許可取りや連絡は当然継続するが、似たような突発的問題が発生する可能性はある。状況に応じて柔軟に対応できる余裕のある運営体制を用意しておくことが求められる。

## ② 失格対応

### SI の紛失・破損

今回から紛失だけでなく破損の場合も失格にすることとしたが、SI チップの紛失 2 件、破損による紛失 2 件、破損 3 件が発生した。SI チップの脱落防止・破損防止のための加工は、役員の提示があればすぐに見せられる条件で認めている。

一方で今年は例年に比して破損件数が多く、特に初期から利用している SI チップに破損が多くみられた。レンタル業者に調査を依頼し、一部ロットに劣化が見られるとの報告があった。

この報告を受け、破損チームからの弁償金は請求しない（または返金する）こととし、破損チップからデータが読み込めた場合や針パンチを利用して完走が確認できた場合は完走扱いとした（他の理由で失格となったチームを除く）。時間調整は行っていない。

今後の対策としてレンタル業者から該当ロットは利用しない、古いチップは新しいものに順次入れ替える対応を行うと報告があった。また耐久性への信頼が揺らいだことから、装着方法や破損の場合の成績の扱いについては次回以降再検討が必要である。

### 装備チェックでの不備

2 日目フィニッシュ時に数チームに装備チェックを行い、地図を無くした 1 チームを必須装備漏れで失格とした。地図は皆さんが安全に帰還するための重要な情報源であるとともに、落としてしまうと特に耐水用のポリ袋はプラスチックごみとして長く山の中に残ってしまう。地図に限らずごみとなるものを落とさないようすべてのチームに気を付けてもらいたい。

### 緊急以外の電話連絡

両日を通じて「SI を紛失（破損）した」「バディとはぐれた」「居場所が分からなくなった」「地図を落とした」といった緊急ではない内容の電話連絡があった。そのうち 4 チームは完走またはミスパンチで帰還したが、いずれも失格とした。

緊急連絡とは「大きな怪我をした」「体調不良のチームを見つけた」「住民とのトラブルがあった」「崖くずれなど通行できない箇所がある」「クマが出た」「制限時間から大幅に遅れる」「コントロールがなくなっている（※）」など安全管理上の問題やイベント全体に関わる内容を想定している。1 秒を急ぐ緊急連絡が発生する場合もある。プログラムでルールが規定されており、対応方法が決まっている内容に対する問い合わせは控えていただきたい。（※過去にコントロール機材に問題があったケースはあったが、スタッフが確認し問題がない場合（現在地を間違えていた等）は失格扱いとする）

主催者としては緊急連絡の例や対応方法を周知していくのが望ましい。

## ③ 前回の課題への対応

### 高度計の利用

昨年のレポートで触れた「高度計は GNSS（GPS）デバイスと同じように利用禁止とするか」についてはイギリスの OMM に合わせて禁止しない方針に決定した。イギリスでは標高を地図に表示せず、現在地把握がしにくくしてあるとのことであったが、OMM JAPAN はイギリスよりも標高が高い場所で開催することが多く、標高がリスクを把握する情報にもなることから当面は標高を記載する方向で考えている。

### ルールとマナー向上への取り組み

参加者のルール理解とマナー向上を課題とし、その一環としてルール紹介動画を作成し事前公開した。個人で作成可能な範囲のクオリティでお聞き苦しい点もあっただろうが、1,000 回を超える再生があり、多くの参加者に見ていただけたようだ。

実際、例年に比べ立入禁止に入った報告は少なく、キャンプ地では 21 時以降静かに夜が更けた、離れ離れになるチームが少なかったと現場に入ったスタッフからの声を多く耳にした。今後も主催者はルールやマナーをより分かりやすく伝える努力を継続することが求められる。

## ④ 謝辞

### クレーム対応に対する謝辞

1 日目に Straight Elite を完走したチームから、終盤に通過する民家の住民がお怒りだったと報告を受けた。詳細を聞くと「自分の家の裏山を通り抜けていくので何をやっているのか聞いたところ、何も言わずに通り過ぎていった。あなたらも同じかといった感じで怒っているようだった。そこで OMM JAPAN のイベントについて説明したところ理解してもらえた」とのことだった。

その情報を確認後、渉外担当者が現地へお詫びに伺ったところ、「ちゃんと説明してくれてよくわかった。ここでこのようなイベントを開いてくれてむしろ嬉しい。応援したい」という言葉をいただけたとのことだった。

該当チームの 2 人が言うには説明に 5 分以上時間を費やしたそうだが、特別な措置を求めるリクエストもなかったので成績上の修正は行っていない。しかし私たちとしては彼らの行為を心から賞賛したい。過去にも触れていることだが、OMM JAPAN はレース形態こそ取っているが、自然の中で挑戦する場を提供し、その結果に順位を付けているだけである。地元の皆さんの理解があって開催できているということをすべてのチームに理解いただき、地元住民と積極的にあいさつし、トラブル回避に努めていただきたい。前述の通り、主催者もマナー向上のための啓発活動を継続すべきである。

参加者数に比して少ない人数で運営しており至らぬ点多々あったかと思いますが、参加者の挑戦心と準備、ルール理解と節度ある行動、地元の皆様のご理解とご協力のおかげで OMM JAPAN 2022 を無事に開催できたことにあらためて御礼申し上げます。また運営に携わってくださり、支えてくださったスタッフの皆様にも心より感謝いたします。

**OMM JAPAN 2022 OKUMINO**

テクニカルディレクター

小泉 成行

**Shigeyuki Koizumi**